

第 16 回岩出市子ども・子育て会議
会議録

日 時	令和元年 11 月 26 日 (火) 13:30～15:30
場 所	岩出市総合保健福祉センター 3階会議室A
出席者	<p>(順不同敬称略)</p> <p>【委員】 桑原義登(会長)、金川めぐみ(副会長)、岩橋美奈、帽子律子、高松千珠、岡本公博、土生川覚弥、福田朱実、亀岡加津美、松本千賀子、中谷博昭、林真世、前芝洋一 (欠席委員 4名)</p> <p>【事務局】 長倉地域福祉課長、井辺生活支援課長、南教育総務課長、広岡子ども・健康課長、塩中副課長、福田副課長、時本主事</p> <p>【オブザーバー】 ㈱ジャパンインターナショナル総合研究所 中嶋</p>
傍聴者	5名
議 題	①岩出市における児童虐待(要保護児童)の現状について ②第2期岩出市子ども・子育て支援事業計画策定の骨子案について ③その他

	確定年月日	記名押印
会議録の確定	令和元年12月6日	岩出市子ども・子育て会議 会長 桑原 義登 ㊟

1. 開 会

2. あいさつ

前芝委員(生活福祉部長)

本日の議題は2点ある。ひとつは児童虐待について。本市の児童虐待については、通告件数、取扱件数とも増加している。もうひとつは計画骨子案の検討である。子育てしやすいまちの実現に向けて、積極的なご意見をいただきたい。

3. 議事

①岩出市における児童虐待（要保護児童）の現状について

＜事務局より「資料1 要保護児童（児童虐待）対応件数」に基づき現状の説明＞

桑原会長

ただ今の件について、ご意見、ご質問はあるか。

中谷委員

児童虐待で死亡に至る人が多い。特異な例は（報道などで）出てくるが、表に出ないものもある。民生委員でも、個人の生活の中に入っていきにくいことがあり、どう入っていくか、市と相談しながら進めている。人を増やすだけでは解決しない。関係者が情報を共有していないなど、取組の仕方がよくない。市民が声を出し、具体的にできることを考えなくてはならない。研究の問題ではなく、いかに解決するかの問題である。

桑原会長

「児童虐待防止法」と「児童福祉法」が改正され令和2年度から、しつけのための体罰が禁止となった。そのことをしっかりと把握していかなければならない。関係機関の連携の課題も、きちんとしていく必要がある。

いま、乳幼児や就学前の子どもの死亡率が高い。虐待が死亡につながるという意識は、持っておいたほうがよい。

また、虐待が脳に影響与えるという話があったが、低身長や低体重が虐待発見のポイントになるといわれるように、身体的にも大きな影響を与える。

親の夫婦喧嘩を見ることも、子どもには大きな影響を与える。また、継続的にトラウマを受けていくと、人も自分も信じられなくなってしまい、回復は非常に難しい。どこでも誰にでも起こりうることだ。

土生川委員

質も大切だが、逆に数も増やさなければならない。マニュアル的に切り分けて処理するやりかたになってしまっている気がするが、件数が多いのでそうせざるを得ない側面がある。

また乳幼児の健診時に、何か（発達の遅れなど）を指摘されると母親はビビットに反応し、厳しく育てて周りについていけるようにしなければ、と考えてしまう。その親心が子どもとの信頼関係を阻害し、自己肯定感が育たないような状態にしてしまう。（親に直接伝えるのではなく）他の方法で子どもの様子を探ることもできるのではないか。

岩出の場合は子どもの数が多いので、マンパワーが足りない。ていねいに育てることで子どもが親になつけば、こういうケースは多少なりとも減るのではないか。

桑原会長

機関の間で連携が切れてしまうという問題はあるのかもしれない。

中谷委員

知っている子をひとり、虐待で亡くした。小さい子どもは行き場がない。自分のこととして考えて、地域共生社会の中で自分ができることがあれば生かすために、発言した。

桑原会長

死亡事例の検証をしたことがあるが、関係機関の連携という課題が非常に大きい。任せきりになってしまっている。

②第2期岩出市子ども・子育て支援事業計画策定の骨子案について

<事務局より「資料2 第2期岩出市子ども・子育て支援事業計画 骨子案」および「資料3 第2期岩出市子ども・子育て支援事業計画 骨子案のポイント」に基づき、内容を説明>

桑原会長

ただいまの件につき、ご意見、ご質問を。

金川副会長

基本目標や施策の方向など、現行計画と変わる部分があれば、次回の会議で比較表を添えていただきたい。また、施策の検討をする中で、要保護児童について関連機関の連携に加えて、被害を受けた子どもに対する継続的な支援と、加害者への支援をどう継続的に行うか、また虐待の予防策として子育てに入る前の親への支援を盛り込んでいただけると、市としての姿勢を示すことになる。

中谷委員

骨子案の9ページに離婚件数が載っているが、和歌山県の平均はどの程度か。岩出市は婚姻の約半数が離婚している。多すぎる気がする。手当をもらうために偽装するケースがあるのではないか。

事務局

婚姻した方が離婚している訳ではなく、婚姻件数と離婚件数は別々に統計をとっている。離婚して本市に転入してくるケースも多いと感じている。

桑原会長

都会に出て結婚し、離婚して地方に帰ってくる人がとても増えている。

松本委員

親寄りの視点が少ない。子どもを育てるには、親を育てる必要がある。これまでは、とにかく待機児童をなくす、そのための器をつくるという方向できたが、質をどうするかということになると、親を育てる必要がある。取組の方法はいろいろあるので、質を上げるところに予算をかけてほしい。

また、支援者の育成や質の向上には、いかに専門職に給与と休養を与えるかが重要だ。多様な課題に対応するワーカーは、とても体力や費用を必要とする。国の取組は一気に進まないで、自治体でやっていただければありがたい。

骨子案の13ページ、一時預かりの利用状況をみると、ほとんどの施設で減少している。なぜか。お母さんが病気になったとき、子どもの預け先がない。ファミリー・サポート・センターはお金かかるので、一時保育が救いとなるのに、減少しているのはどうしてか。

事務局

一時預かり専用の保育士とスペースがあるのは2施設しかなく、他の施設は入所児童の定員の余裕を利用して預かるため、申し込みがあっても、受け入れられないケースもある。

松本委員

差し迫った状態で日常暮らしている家庭だと、ちょっとしたことで一気に虐待につながってしまう。長時間連続して利用となると、ショートステイになり、親としてはハードルが高い。

事務局

受け入れる余裕や空き部屋があって、保育士を確保していただき、自園の園児以外でも預かってもらえるとなれば、市が委託すればよい。そのような話があれば、たいへんありがたいし、一時預かりを増やしていける。

中谷委員

岩出市は熱心で、資格のある人を登録制にして、利用者が増えたら来てもらえるという形でスタートした。和歌山でいちばん進んでいる。

松本委員

病後児保育の利用者数は、あまり多くない。他地域では、病院併設型の病児保育がある。病後児保育では地域のニーズに合わず、ぜひ病院と連携した病児保育をやってほしい。

林委員

出生数が減っているのに、発達相談の増加が目立つ。また、親子教室も増えている。フォローが必要な子どもが増えているのは分かるが、逆に障がい児保育は減少に転じている。療育施設の数が増えて、そちらに流れているのかもしれない。働いている保護者がたいへん増えていて、療育施設での長時間の保育を希望する人が増えているが、保育所ではないので対応が難しい。保育所と連携できたらと考えている。

また、施策の方向性として「子どもが遊べる環境の整備」と「障がいのある子どもと家庭への支援」があげられているが、(障がいのある子どもを)安心して遊ばせられるところがないという声を保護者から聞く。保護者は子どもの行動にたいへん気を遣って子育てをしている。ぜひともそうした点を反映していただきたい。

事務局

保育所で受け入れられていないのが原因とも考えられる。支援の必要な児童に加配の保育士を配置できないため保育所入所をあきらめる利用者もあり、保育士不足が影響している。単に障がい児が減っているというわけではない。

桑原会長

児童虐待の統計で、対応件数が多いのは、前年度分を持ち越しているためか。

事務局

そうです。

桑原会長

ということは継続して支援していかなければならないケースが増えているということなので、補足があってもいいかもしれない。また、「虐待相談・虐待通告の内訳」で、「虐待相談の内容をみると」とあるが、この表現はあたらないのではないか。性格行動相談なども含むので、相談の内容をみると、などのほうがよいのではないか。

松本委員

虐待相談件数のカウントの仕方は、県で統一されているのか。

事務局

特に県からの指示はないが、要対協（要保護児童対策地域協議会）に連絡があり、終結していないものをあげている。どの自治体も統計の取り方は同じだと考えている。

桑原会長

市で受けた相談は、全て児童相談所に回しているのか。

事務局

ほとんどは児童相談所にいっているが、児童相談所には相談せずに、保健師で関わっているケースもある。

土佐川委員

17ページに中学校の生徒数と小学校の児童数の表があるが、双方で数に乖離がある。市外や私立の中学に通っている生徒数が入っていないからだと思うが、それも入れたほうがよいのではないか。

③その他

桑原会長

このほど和歌山信愛大学に「わかやま子ども学総合研究センター」ができた。活用していただきたい。

事務局

次回の会議は、12月26日(木)にあいあいセンターで開催する。

閉会